

発行：小松市教育委員会 埋蔵文化財調査室

<http://www.city.komatsu.lg.jp/maizoubunkazaichousa/>

メールアドレス:maibun@city.komatsu.lg.jp

埋蔵文化財センター開館！



全国的に有名な国重文指定「矢田野エジリ古墳出土埴輪」や北陸の弥生時代遺跡を代表する県指定「八日市地方遺跡出土品」など、全国に誇れる市内の重要遺跡出土品を展示します。古代ものづくり体験や各種講座など古代ロマンあふれる企画を用意し、皆様のご来館をお待ちしています。

梯川中流域に広がる沖積平野は県内でもとくに遺跡が集中しているところ。漆町遺跡はそうした梯川中流域の左岸（南側）に位置しており、漆町、金屋町、白江町、若杉町の4町にまたがる広範囲な遺跡です。

今年度の発掘調査は、第一小学校の校舎改築事業に伴って実施したもので、第一小学校グラウンド内の約1,000㎡を調査しました。調査では、掘立柱建物跡1棟、溝跡7本が確認され、そのうちSD05（溝跡）では、古墳時代初頭の土器が比較的まとまって出土しました。



SD05（溝跡）から出土した土器



粘土採掘坑の全景

小松市林町から加賀市松山町までの低丘陵部には北陸最大規模といえる南加賀窯跡群が存在し、6世紀初頭から10世紀前半までの間、須恵器が焼かれ続けました。二ツ梨グミノキバラ古窯跡群は、この一角に位置します。

9世紀代の粘土採掘坑、道路状遺構等が見つかりました。粘土採掘坑は、昨年度からの継続で調査したものであり、調査区内には7基の竪坑がありました。また、昨年度発見されていた平坦面（テラス面）に延びる道路状遺構も確認されました。隣接して発見されたこれらの遺構は、昨年度の成果も含めて9世紀代の粘土採掘作業場風景の復元に寄与する調査となりました。

二ツ梨豆岡向山古窯跡群も、南加賀窯跡群の一角に位置します。

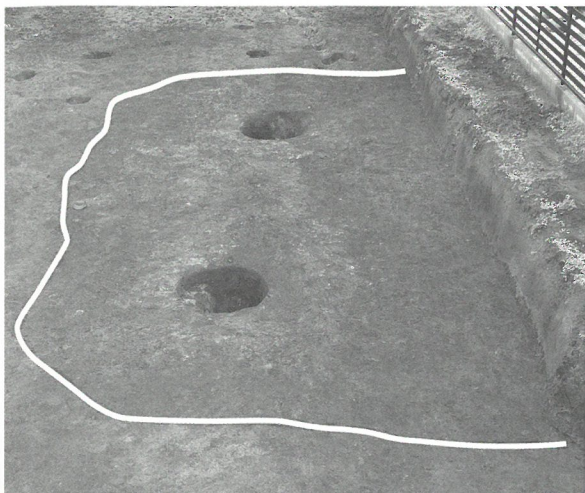
5年計画で進められてきた調査の最終年となる平成21年度の調査の結果、昨年調査した須恵器窯の6号窯の下から13号窯を検出しました。また、4号窯灰原、炭窯、焼土坑、工房跡と考えられる竪穴状土坑を検出しました。

13号窯は9世紀前半に操業された須恵器窯で、重複する6号窯によって床が掘り込まれていたため、部分的にしか残っていませんでした。しかし、製品を固定させるための置台や焼台が癒着し1枚の板状になっており、厚さは5cmに及んでいました。窯の中が極めて高温になっていたと考えられます。6号窯は、この硬い床を破って造られていることがわかりました。

4号窯の灰原は、近代の造成の影響によって残存する範囲は狭いものでしたが、須恵器焼成時に出る大量の灰を含む層と、焼き損じて捨てられた須恵器片が大量に見つかりました。



13号窯の完掘状況



大型の竪穴住居跡 (SI13)

薬師遺跡は木場潟の西側に面する台地上にあり、手前に木場潟、その後方に白山を望むという眺望の良いところに位置する集落遺跡です。飛鳥・奈良・平安時代の集落遺跡として知られています。

今年度は個人住宅建築に伴う発掘調査を10月に1件、11月に1件実施しました。10月に実施した調査では、掘立柱建物跡1棟、土坑2基を確認し、土坑2基のうちの1基(SK14)からは8世紀前半の土器がまとまって出土しました。11月の調査では、竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、溝跡1本を確認。とくに竪穴住居跡は大型のもので、出土土器により6世紀前半(古墳時代後期)の住居跡と判断されます。これまでの薬師遺跡の調査においては6世紀前半の住居跡は見つかっておらず、現時点では薬師遺跡のなかで最も古い住居跡を確認しました。

本年度は、昨年度調査を行った北西側平坦面の補足調査を行いました。その結果、平坦面を造成した痕跡や小穴は確認されましたが、柱穴となるような穴は検出されず、建物跡は確認されませんでした。また、遺物の廃棄場所を探す目的で、谷部や斜面裾部の調査も行いました。しかし、そのような場所は確認されず、遺物は元々少なかったのか、廃絶時に片付けられたと考えられます。

出土遺物は、古代では10世紀～11世紀の土師器碗の底部が出土したのみです。ただし、縄文土器の破片が造成土内から少量出土しています。よって、平坦面が人為的に造成されたことは確実であり、極少量ですが古代の遺物も出土していることから、その時期に何らかの活動が行われたことは言えそうです。



平坦面精査の様子



石垣の検出状況

今回の調査では、小松城三の丸堀南側の護岸石垣が発見されました。この石垣は、現存する絵図には描かれていなかったものであり、小松城跡の実像を示すものとして重要な発見です。前田利常在城時のものとみられますが、時期が下る可能性もあります。

石垣は、切込接ぎで布積みと乱積みの中間の積み方といえます。石材は角礫凝灰岩で、八里～鶴川～大野にかけての丘陵部で切り出されたものです。排水と裏支えのための裏込石が、幅約2mの範囲に隙間なく詰め込まれていました。

石垣は、堀底まではあと2段あり、根石を含め4段分が残存しています。当地は地盤の弱い湿地であることから、石垣の崩壊を防ぐため、堀底には松材の丸太胴木とその前面の止め石による基礎工事が施されていました。

遺物は、江戸時代前期のいぶし瓦や後期以降の棧瓦、かわらけ、陶磁器などが出土しています。

その① 第31回まいぶん講座「縄文時代の暮らしとムラー真協遺跡ー」

高田 秀樹氏（能登町真協遺跡縄文館 館長）

平成21年度まいぶん講座では、住まいと暮らしを特集した講演を企画しました。外部講師をお招きしての1回目は、縄文時代の住まいと暮らしとして、能登町真協遺跡の調査成果を中心に講演していただきました。

この中でもとりわけ、謎の多い環状木柱列に関する研究には聴講者の関心も高く、石斧を使用するの伐採実験やクサビを打ち込んでの半裁実験の紹介など、縄文時代の木工技術を疑似体験できたのではないのでしょうか。



その② 第32回まいぶん講座「戦国大名朝倉氏と一乗谷」

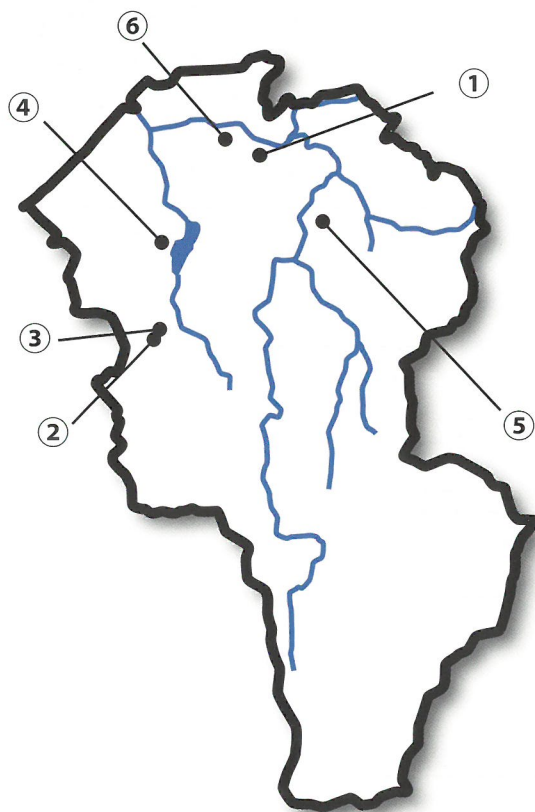
岩田 隆 氏（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 副館長）



特集の2回目は、中世の住まいと暮らしとして、一乗谷朝倉氏遺跡について講演していただきました。遺跡は現在、国の特別史跡となっており、城下町の街並みが一部復元展示されています。

岩田氏によると、年間20万人以上の訪問があり、聴講者の中にも過去に訪れたことのある方が多数いらっしゃったようです。まだ行ったことがないという方で興味をお持ちでしたら、戦国時代を肌身で感じることができる一乗谷朝倉氏遺跡を一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

平成21年度に調査した遺跡の位置



① 漆町遺跡

調査面積：1,000 m²

時代：弥生～中世

種別：集落跡

② ニツ梨グミノキバラ古窯跡群

調査面積：200 m²

時代：平安時代

種別：窯跡

③ ニツ梨豆岡向山古窯跡群

調査面積：600 m²

時代：奈良～平安時代

種別：窯跡

④ 薬師遺跡

調査面積：137 m² / 112 m²

時代：古墳～平安時代

種別：集落跡

⑤ 松谷寺跡

対象面積：8,000 m²

時代：奈良～平安時代

種別：寺院跡

⑥ 小松城跡

調査面積：200 m²

時代：近世

種別：城跡